



不知火海・球磨川流域圏学会

# NEWS LETTER

- 平成 30 年度 総会報告
- 平成 30 年度 研究会報告
- 平成 30 年度 第 1 回現地見学会報告
- 平成 30 年度 第 2 回現地見学会案内
- 新会員紹介
- 球磨川流域の山歩記 第 6 回 市房山
- 残したい水ものがたり平成 30 年度候補地募集

つる 詳子  
つる 詳子  
時松雅史  
つる 詳子  
平野将司  
高平雅由



平成 30 年度第 1 回現地見学会で訪れた水俣市の桜野園の茶畑で参加者全員の集合写真

# 25

2018 年 9 月 15 日発行



不知火海・球磨川流域圏学会

# 平成 30 年度総会報告

つる詳子

平成 18 年度の第 1 回目から数えて 13 年目となった平成 30 年度の総会・研究発表会が水俣市で行われました。水俣市内での開催は今回で 2 回目です。以下報告です。

## 1) 開催日・会場

日時：平成 30 年 6 月 2 日（土）午前 10 時 30 分～ 11 時 30 分

会場：水俣環境アカデミア

出席者：40 名（出席 21 名+委任状 19 名）



## 2) 総会式次第

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| ① 開会               | 司会：亀井真由美 |
| ② 会長挨拶             | 堤 裕昭     |
| ③ 議事               |          |
| 1. 議長選出            |          |
| 2. 平成 29 年度事業報告    | 佐藤 伸二    |
| 3. 平成 29 年度会計報告    | 坂井 米夫    |
| 4. 会計監査報告          | 沢畑 亨     |
| 5. 平成 30 年度事業計画案提案 | 佐藤 伸二    |
| 6. 平成 30 年度予算案提案   | 坂井 米夫    |
| 7. 役員改正            |          |
| 8. 会長挨拶            | 堤 裕昭     |
| ④ 閉会               |          |



## 3) 平成 29 年度事業報告

### 1 平成 29 年度大会

総会 日時及び会場：6 月 4 日（日）午前 10 時 30 分

熊本県立大学 CPD センター

研究発表会 日時及び会場：6 月 4 日（日）

熊本県立大学 CPD センター

### 2 第 1 回現地見学会 日 時：6 月 3 日（土） 参加者：25 名

テーマ：宇土市の歴史と文化を巡る」参加者：20 名

コース：集合場所（宇土駅）→粟島神社→住吉自然公園（たわれ島、ドゥル女子記念碑、住吉神社）→あじさいの湯（馬門石、石切り場跡、昼食）→轟地区（轟水源、大太鼓資料館、貝塚）→西岡台（西岡神社、中世宇土城跡）→宇土市市民会館傍（武家屋敷、水道・船場）→解散

### 3 第 2 回現地見学会

日 時：10 月 15 日（日） 参加者：14 名

テーマ：「小川町と砂川流域の歴史と文化を辿る」 参加者：23名

コース：小川駅→川尻の旧河川跡 → 出水地蔵水源 → 海東の駅→塔福寺入り口 → 舞嶋文殊堂 → 峠の岩清水 → 平原公園 →小川町（街並み、風の館、塩屋、阿蘇神社等見学）→小川駅（解散）

4 ニュースレター発行 年2回（第22号5月、第24号4月15日）

5 学会誌発行 Vol.12 平成30年8月発行予定

6 理事会開催（6回）

平成29年	8月4日	県大環境共生学部	参加者：8名
	10月20日	八代市太田郷コミュニティーセンター	参加者：8名
	12月1日	八代ホワイトパレス	参加者：12名
平成30年	2月23日	県大環境共生学部	参加者：8名
	4月27日	高専八代キャンパス	参加者：8名
	5月21日	高専八代キャンパス	参加者：7名

#### 4) 平成29年度会計報告

29年度決算			会計 坂井米夫
(収入の部)			
名目	内容	金額	備考
個人会費	3000円*66名	198,000	
団体会費		0	
繰越金		9,067	
雑収入	学会誌・PDF販売等	12,660	
	発表会参加費 剰余金	52,820	発表会 24500円
	前年度学会誌製作費残	13,796	
		計 286,343	
(支出の部)			
名目	内容	金額	備考
発送料	90名	34,518	発送+ハガキ
学会誌作成費	印刷予定費用	100,000	
学会誌編集費	編集	0	
ニュースレター作成	2回/年	22,450	
事務経費		8,224	コピー、チラシ、印字等
HP維持費		5,000	
会場費	会議費	820	役員会
雑費	講師謝礼	10,000	
	繰越	105,331	預金 99121円 口座 6210円
		計 286,343	
			監査 沢畑 亨
*前年度学会誌代が安かったので残金を入れています。			



## 5) 平成 30 年度事業計画

- 1 平成 30 年度大会
  - 総 会 日時及び会場：6月2日（土） 水俣環境アカデミア
  - 研究発表会 日時及び会場：6月2日（土） 水俣環境アカデミア
  - 第 1 回現地見学会 6月3日（土）「水俣の棚田、茶畑、森林を巡る」※別紙参照
- 2 第 2 回現地見学会 10月21日（日）「水上村周辺を巡る（仮称）」
- 3 「残したい水ものがたり」第 3 回目 推薦地公募及び候補地選定
- 4 ニュースレター発行 年 2 回（ 第 25 号 9 月、第 26 号 4 月発行予定 ）
- 5 学会誌 vol.13 発行 平成 31 年 8 月末日発行予定
- 6 ホームページの充実
- 7 理事会開催 6 回／年
- 8 会員拡大 目標 130 名（平成 30 年 5 月 31 日現在 会員 90 名）

## 6) 平成 30 年度予算案提案

30 年度予算			会計 坂井米夫
(収入の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
個人会費	3 0 0 0 円* 90 名	270,000	
団体会費		0	
繰越金		105,331	預金 9 9 1 2 1 円口座 6 2 1 0 円
雑収入	学会誌・PDF 販売等	10,000	
	発表会参加費 寄付金	50,000	
計		435,331	
(支出の部)			
名 目	内 容	金 額	備 考
発送料	90 名	45,000	発送+ハガキ
学会誌作成費	印刷	100,000	
学会誌編集費		30,000	
ニュースレター作成	2 回／年	50,000	
事務経費		40,000	コピー、チラシ等
HP 維持費		5,000	
会場費	会場費	20,000	役員会・総会・発表会
雑費	講師謝礼	10,000	
予備費		135,331	
		計 435,331	

## 7) 平成 30 年度・31 年度役員

### 《理 事》

- |      |       |                 |
|------|-------|-----------------|
| 会 長  | 堤 裕昭  | 熊本県立大学環境共生学部・教授 |
| 副 会長 | 森山 聡之 | 福岡工業大学社会環境学部・教授 |

副 会長	時松 雅史	熊本高等専門学校八代キャンパス・教授
事務局長	佐藤 伸二	熊本県文化財保護指導員
会 計	坂井 米夫	環境保全型農業研究会

#### 《学会誌編集》

編集委員長	入江 博樹	熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科・教授
〃	新井 祥穂	東京農工大学大学院共生科学技術研究院、教授
〃	井上 昭夫	熊本県立大学環境共生学部・教授
〃	上村 雄一	くまがわ春秋編集主幹査読委員
〃	藏治光一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科・教授
〃	高木 正博	宮崎大学農学部・教授
〃	高橋 徹	熊本保健科学大学科学部・教授
〃	堤 裕昭	熊本県立大学環境共生学部・教授
〃	森山 聡之	福岡工業大学社会環境学部・教授

#### 《総 務》

総務委員長	つる 詳子	自然観察指導員熊本県連絡会会長・薬剤師
〃副委員長	高平 雅由	熊本大学文学部 水俣病資料館技術補佐員
総 務	上淵 徳光	白髪岳を守る会・名誉顧問
〃	大塚 勝海	自営業
〃	小川 滋	九州大学名誉顧問
〃	亀井真由美	八代市水産林務課
〃	久保田貴紀	かちゃあデザイン一級建築士事務所
〃	佐藤美智恵	熊本県立大学環境共生学部職員
〃	正角 雅代	天草海部 部長
〃	田畑 清霧	東陵高校・教諭
〃	高野 茂樹	日本野鳥の会熊本県支部・会長
〃	松本 学	人吉中央出版社

#### 《監 事》

監 事	沢畑 亨	水俣愛林館・館長
監 事	歌岡 宏信	NPO 未来ネット・理事

#### 《顧 問》

顧 問	大和田紘一	東京大学名誉教授
-----	-------	----------



# 平成 30 年度 研究発表会報告

つる詳子

総会終了後に行われた研究発表会では、地元の水俣城に関する基調報告に続いて、6 件の口頭発表と 6 件のポスター発表がありました。内容については以下の通りですが、当日参加されていない皆様には、当日配布された発表要旨をニュースレターと一緒に送らせていただきます。

## 1) 基調講演 (13:30 ~ 14:30)

### 「梅北の乱の時期の水俣城」

正岡祐子 (水俣市生涯学習課文化振興係長)

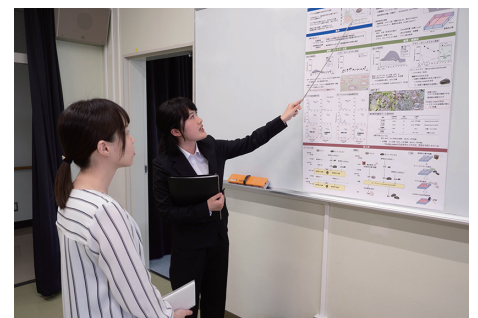


## 2) 口頭発表 (14:30 ~ 17:00)

1. 「大皆伐時代の到来」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 沢畑亨 (愛林館館長)
2. 「桜野園のお茶と人」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松本和也 (お茶の生産者)
3. 「海・山・街をつなぐ ・・・・・・・・・・～水俣食べる通信の取り組み～」 諸橋賢一 (水俣食べる通信編集長)
4. 「光と環境制御の技術で自然環境再生」・・・・・・・・ 園山 芳充 (株式会社アグリライト研究所 代表取締役)
5. 「諫早湾の底生生態系における水銀濃縮」・・ワッチラ・ジャインガム (熊本県立大学環境共生学部大学院)
6. 「環境汚染物質に対する動物の感受性の種差」・・・・・・・・ 平野将司氏 (熊本高等専門学校八代キャンパス)

## 3) ポスター発表 (12:00 ~ 17:00)

1. 「菊池川の河口域の環境の季節変化がヤマトシジミの個体群動態に与える影響」  
立石朋 (熊本県大・院・環境共生)・堤裕昭 (熊本県大・環境共生)
2. 「朝倉大水害をもたらした台風 5 号の影響による緑川河口干潟の変化について」  
北川昇 (熊本県大・院・環境共生)・堤裕昭 (熊本県大・環境共生)
3. 「天草河内川流域川のアリ」  
塚本理晋 (福岡工業大学社会環境学科)
4. 「ドローンに搭載カメラを利用した地形計測システムのスギ林への検討」  
井島拓也 (熊本高専 生産システム工学専攻) 緒方大樹 (熊本高専 建築社会デザイン工学科, 平成 29 年度卒業生) 入江博樹 (熊本高専 建築社会デザイン工学科) 葉山清輝 (熊本高専 電子情報エレクトロニクス工学科)
5. 「佐敷干潟にアサリの高密度個体群を戻す」  
松岡佳子 (熊本県立大学大学院・環境共生学研究科)





平成 30 年度第 1 回

# 現地見学会記録

熊本高等専門学校 時松雅史



伐採地から久木野集落を眺める

6月3日(日)、平成30年度第1回目の現地見学会が行われた。参加者は24人で、10時に水俣市役所に集合、数台の車に乗り合わせて、はじめに水俣城麓の駐車場に車を止め、そこで昼食メニューについて話し合った。メニューを決定した後、久木野の愛林館に向かう。国道268号を走ると、南側の山には伐採された土地が数カ所見られた。次に県道15号に入って少し走ったところで車を止め、宝川内地区を遠望した。宝川内は2003(平成15)年に集中豪雨による土砂災害が発生した地区である。現在は緑も増え、災害の爪痕も消えているように見えた。

久木野の愛林館に着いて買い物をした後、我々は寒川地区の棚田に向かった。途中、棚田の石垣についてガイド役の沢畑氏から、古い石垣は江戸時代後期のものと思われ、天草から石工を呼んで地元の人が造った、棚田は下側から一枚ずつ築き、石はこの付近の土を掘れば出てく

るので、その石を使って石垣を築いた、また、石を安定させるには相互に3点で押さえることが肝要である、この地域の70代の人は大抵自分で石垣を造る技術を持っている、と解説された。

棚田の絶景スポットからの眺めは素晴らしい。周辺にはアジサイの花も咲いており、今流の言葉でいうと、インスタ映えするところであろうか。しかしながら棚田での農業経営は非常に厳しいという。生産性がどうしても低いので、公益的機能があるということで、国民が負担してくれなければ継続できないと沢畑氏は言う。近年はイノシシが田を荒らすので、その対応も大変で、ジビエ料理がマスコミで注目されてはいるが、常に同質の肉で供給し、それを消費する現在の食肉市場ではジビエの肉にはハードルが高いと説明してくれた。



寒川の棚田

棚田でいつものように記念写真を撮った後、我々は寒川水源亭に向かった。そこで水源を見学してから

昼食にした。メニューはそうめん・ニジマスの塩焼き・おにぎりの3点セットである。事前に注文していたので、待たされることなく、美味しくいただいた。留学生のワッチラ君もそうめん流しは嫌いではない様子で、流れているそうめんを箸で上



寒川水源亭で昼食のそうめん流し

手くつかんで食べていた。このそうめんのつゆは独特で、焼きエビのだしが使われており、実は筆者の好みの味である。店を出るとき、めんつゆが売られていたので、「棚田の香り米」といっしょに購入した。後日、香り米を家で試食すると文字通り、香りが立って美味しかった。なぜこんなに香りが立つのか、不思議な感じがした。

昼食を済ませた後、次は愛林館の向かい側にある伐採が進んだ山を見学した。昨日の研究発表会で沢畑氏が「大皆伐時代の到来」と題して報告、その中で現在森林管理法案という皆伐を後押しする制度があるため、「経営管理実地権」を設定した業者(意欲と能力のある林業経営者)が、積極的に杉等の伐採を進め

ているということであった。山の保全に理解がある業者はよいが、そうではない業者の手にかかると無残な状態になるという。我々が案内してもらった山は特に荒れているという様子はなく、重機が通った道にもきちんと杉の苗が植えられていた。その小さな杉の苗を足で踏まないように注意しながら林道と沢畑氏の説明ポイント地点を往復した。現在、国内の木材価格は非常に安い、中国へ持って行くと売れるので切るそうである。そういえば八代港からの輸出品として原木が多いと聞いているのでこれと関連しているのだろう。伐採跡にはカラスザンショウという植物があちこちに見受けられ、参加者たちも思わず目をとめて見入っている様子であった。

最後に桜野園を訪問した。昨日の研究発表会で農園主の松本和也氏から報告がなされていたので、堤会長をはじめ見学者たちも楽しみにしていた場所である。茶園の工場前に着くと、松本氏は我々をトラックの荷台に乗せて茶園まで移送してくれた。トラックの乗り心地はすばらし



く(?)、スリル満点であった。茶園に着くと、すぐに松本氏からお茶がふるまわれた。夏は水出しがお薦めで、15～20度の水に茶葉を入れ、1～2分待つ、するとお茶の香りをまとった水と呼べるような渋みのないお茶を味わえるそうだ。実際にいただいて飲んでみると、甘みが少しあり、あっさりして美味しかった。松本氏は蓋のない急須「チャーみる」を使って参加者に次々とほうじ茶や紅茶をふるまいながら、紅茶は山陽新幹線内で販売していること、あるいは茶の実を原料とした化粧品を開発していること等について説明された。



お茶畑で振る舞われたお茶に舌鼓

お茶をいただいた後、茶畑について松本氏から、通常、茶摘みは4・5月に一番茶、6月に二番茶を摘む、気温が低い山上では、茶葉がゆっくり育つため味も美味しくなる、また今年は例年に比べて早く気温が上がったので、早めに摘んだこと、摘むときは1ミリ単位で調整を行うとの説明がなされた。さらに茶葉を刈る機械はコンテナ式より安い袋式

のものを使用、価格は600万円で、前後の傾斜に弱く、昨日も機械が横転しそうになったそうである。また参加者から茶の木について質問が及ぶと、在来のもは非常に長い寿命があるが、通常は25～30年で植え替えをする、花は余り咲かず、端の方に少し咲く、摘み取り前にはヘクソカズラ等の雑草も取らないといけけないので大変であると話をされた。説明がひと通り終わると、我々は記念撮影を行い、お気に入りの茶を購入、製茶工場まで今度は徒歩で戻った。その後は水俣市役所の駐車場に再び集合、解散となった。(16時頃)

今回の見学会では、桜野園の松本和也氏からお茶の栽培から入れ方までわかりやすい解説をいただいた。終日ガイドを務めていただいた沢畑享氏とともに深く感謝申し上げる次第である。







## 新会員紹介

平成 30 年度第 2 回現地見学会案内

### 「市房山の麓、水上村の自然と歴史を巡る」

毎年 2 回開催しています不知火海・球磨川流域圏内の現地見学会は、球磨川本流の上流水上村周辺を巡ります。水上村は熊本県の南東にある人口は 2000 人ほどの小さな村ですが、市房山の山すそに広がる豊かな自然に囲まれ、古い歴史をあちこちに見ることができます。

・日時：10 月 21 日（日） ※小雨決行

・場所：水上村内

・集合場所・時間：湯前町まんが美術館 10 時集合

・コース：湯前まんが美術館→1 時間程度のトレッキング→水上スカイビレッジ→水上村キャンプ場（昼食）→千光山生善院（通称猫寺）→水の上の市場等

・参加費：2000 円程度

・申込先：Email:tru-shoko89314@hiz.bbiq.jp（つる詳子）

※コース・順番は、変更になる場合もあります。

※前日から宿泊希望する人は、桜民宿（〒868-0703 水上村湯山 282-2、電話 0966-46-0108）に直接申し込み。

※詳細は同封の別紙チラシをご参照下さい。



熊本高専生物科学システム学科

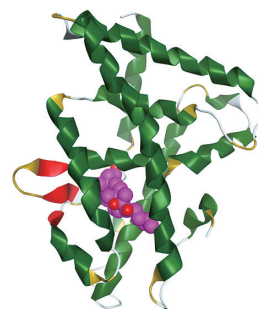
### 平野将司

この度、本学会の会員となりました熊本高専生物化学システム工学科の平野と申します。私は、平成 21 年 3 月に熊本県立大学にて決して優秀な学生とはいえず博士号の学位を取得し、愛媛大学でのお酒を酌み交わしながら議論しつつ、研究に邁進したポスドク生活を経て、平成 28 年 4 月より熊本高専八代キャンパスへ赴任しました。本年度で 3 年目を迎えます。研究室の立ち上げはまだ途中ですが、何とか研究環境を整えつつ、配属学生と新たな挑戦も行っています。

私の研究内容は「核内受容体タンパク質と低分子化合物の相互作用」です。現在、米国化学会のケミカルアブストラクトサービスに登録されている化学物質は 1 億 4,000 万種を超えています。こうした化学物質は我々の生活に不可欠なものになっていますが、その一方で、環境汚染による健康被害など、化学物質の安

全性やリスクに関して多くの課題が残されています。私はこれまで多くのモデル生物（線虫・甲殻類・魚類・鳥類・水棲哺乳類）を対象として、内分泌系・異物代謝酵素・核内受容体を介した転写調節機構に着目し、化学物質に対する応答の種多様性の分子的機構について研究を遂行してきました。

熊本高専に赴任後は、こうした環境汚染の研究に加え、「核内受容体タンパク質」を中心に、新たな食品機能性に関する研究もスタートさせました。八代・水俣を中心とした不知火海・球磨川流域圏は、農林水産物が豊富であり、平成 25 年には熊本県による「くまもと県南フードバレー構想」を策定し、県南地域の活性化に期待が高まっています。八代キャンパスに赴任しましたので、今後はこうした地域の作物に着目し、食品機能性から健康科学を考える研究も推進していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



核内受容体タンパク質の立体構造モデル



# 球磨川流域の山歩記 第6回 市房山朝駆け登山

高平雅由

## 連載



8月30日、市房山に登ることにした。どうも最近はこの原稿を書くために山の登らされているようで登山の健全さがない。

それでもこの締め切りがあるからこそ山に登に足が向くのであって、行くまでは憂鬱でも登り始めるとやっぱり山は楽しい。

今回はどこの山に行こう。そうだこの号の出る翌月は現地見学会が水上村であるじゃないか。水上村といえば市房山だ。日本200名山の一座にして球磨三山の一つ。申し分ない。が、しかし、市房山である。。。標高1721m。国見岳に続いて熊本県では2番目に高い山で登山口から山頂までの標高差は1100mもあり、急な斜面を一直線に登る登山道は熊本県でも屈指の険しさ。3年前に初めて登ったが、それ以来足が向かなかったのもそのきつさが足にしみこんでいるからなのだ。あときは参ったなあ。

それに加えてこの夏の暑さである。いったいどうなるんだろうと一抹の不安を抱えながら5時半に水俣の家を出発。3号線を北上し津奈木ICから南九州西回り自動車道をつづいて先づ芦北ICで降りて県道27号線を佐敷川沿いに上っていく。小さな峠を越えると球磨川の支流天月川が現れる。やがて天月川が球磨川に合流する大野大橋を渡って右折、今度は球磨川沿いに国道219号線をさかのぼる。人吉を経てあさぎり町、多良木町、湯前。湯前から国道388号線に左折してループ橋をぐるっと回ると目の前に市房ダムだ。ここまで水俣から85Km、2時間弱と意外と近い。



球磨川の源流はダムを渡って県道142号をさらに山深く山犬切(山の名前"やまいんきり"と読む)の

山麓にある。いつか行ってみたい場所だが今回はぐっと我慢して椎葉村に続く388号線をダム湖沿いに。途中、市房山キャンプ場への看板を頼りに市房山の山麓に分け入る。

車窓から見上げる今日の市房山山頂はガスの中だ。見晴らしは期待ではないな。



市房山の登山口はキャンプ場のすぐ上にある

のだが今回はさらに車を進めて林道の終点にある登山口から登ることにした。ここがほぼ3合目。キャンプ場の登山口から標高差で200mほど楽をさせてもらった。7時25分登山開始。曇り。気温はすでに25度。小さな沢を渡るとすぐにキャンプ場からの登山道に合流する。市房山の名物である樹齢千年の杉の巨木群はここより下にある。今回はしょうがないなあきらめて



いたら幹周  
り6m強の  
新夫婦杉が  
出迎えてく

れて、やはり市房山は市房杉だなぁ。屋久島ほど苦労しなくてもこれだけの巨木が見られるんだから市房山はおすすめです。

新夫婦杉を過ぎると大きな岩を積み上げて作られた八丁坂の階段が現れる。一段一段が高い。両脇には苔むした岩の縁石が深山の雰囲気漂わしている。写真写りのいい場所だが最初に体力を奪われる場所でもある。



八丁坂を  
登り切ると  
コンクリー  
ト造りの市

房神社が現れる。創建は大同2年(806年)、相良家代々の祈願所だったらしい。今は神社というよりコンクリートの避難小屋といった趣ではあるが中に入ると凜とした空気がある。境内のそばには水場があっとうれしい。ここが4合目。

さて、ここからが馬ノ背と呼ばれる6合目過ぎあたりまでの標高差600mがとにかくきつい。壊れてハードルのようなになった木段とむき出しの木の根、岩場、ロープ場、今にも



壊れそうな梯子が登っても登っても繰り返し現れて手足をフル動員しなければ進めない。

曇り空の森の中とはいえ汗が体中からしたたり落ちる。今日は暑いだろうと持ってきた2Lの水も慎重に飲まなければ下山までおぼつかないだろう。あの岩を超えるまで、あの木の根元までと目標を決めて斜面に食らい付く。60過ぎて何でこんなことをやっているんだろうな。などとマゾっ気な自問自答を繰り返しながら登る。登っても登っても急な登山道が続く。汗が滴り落ちる。

休憩を小まめに入れながら、というか足が止まって動けなくなるんだが、なんとか緩やかな登りへ。このあたりまで来るとブナ林が現れる。下草は生えているが低木はほとんどない。樹間も閑散としている。突



然20mほど先の木立の中に3頭の鹿が現れた。こっちには気づいているが慌て

ている様子はない。倒れたブナの木が砕かれた巨大な骨のように散乱し

ている斜面をピョンピョンと跳びはねて消えていった。

馬ノ背を過ぎるてなだらかな斜面から尾根筋へ出ると高い木はほとんどない。何度もニセピークにだまされながらな



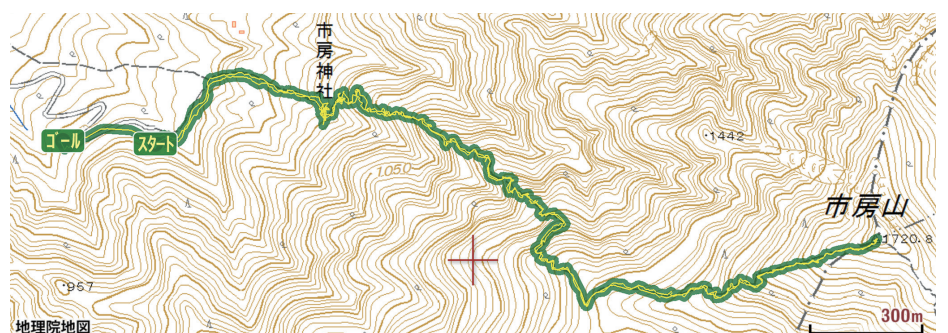
んとか山頂に到着。あきらめて

はいたが全く展望がない。視界は50mほどだろうか。ザックを下ろして食事をとろうとしたら突然ザザッと大粒の雨が降り出してもうなんだかなぁ。やっとの思いで登ったというのに感慨に浸る暇もない。大急ぎで雨具を着て下山することに。あの急な坂を雨の中3時間も下るなんて考えるだけでめげそうだけど、山は登ったら下りるのがしきたりだからしょうがない。(中略)



結局雨は途中で上がり打って変わって灼熱

地獄に苦しめられることになったのだが、なんとか下山して温泉に浸ることができたのだ。めでたし。





# 「残したい水ものがたり」 平成 30 年度候補地募集

不知火海・球磨川の流域圏の中で、未来に残したい水辺はありますか？当学会では、そんな水辺を選定していく取り組みをしています。将来に残したい身の回りの水辺（湧水地や川、干潟だけでなく、田んぼや池などの湿地も含みみず）をご推薦下さい。本年度の締め切りは、平成 31 年 3 月 31 日です。なお、今までの承認地は、下記、FB ページで見ることができます。

- ・「不知火海・球磨川流域圏学会 FB ページ」<https://www.facebook.com/shiranuikuma/>
- ・募集要領チラシ⇒<https://goo.gl/b07fmK>

=====

## ■推薦方法

推薦者は以下の項目を文書にて、下記送付先まで送付してください。

(1) 推薦地の水辺の名称（正式な名称がない場合は、他の方に分かるような名前を付けて下さい）

(2) 推薦地の場所（住所・目印等具体的に。できれば緯度経度、または電子地図サービスの URL）

(3) 推薦者氏名

(4) 推薦理由（200～400 字程度）

(5) 写真（複数可、できるだけ解像度が高いもの、ご自身で撮影されたもの）

(6) 推薦者の住所、連絡先

## ■送付先

E-mail、もしくは Facebook ページのメッセージに上記項目をお知らせ下さい。

- ・E-mail: [irie@kumamoto-nct.ac.jp](mailto:irie@kumamoto-nct.ac.jp) 入江博樹

- ・Facebook ページ：「不知火海・球磨川流域圏学会」<https://www.facebook.com/shiranuikuma/>

## ■締め切り 2019 年 3 月 31 日（日）

## ■選定の方法

- ・審査員は会員とし、審査員によって構成される審査委員会が行います。

- ・会員及び非会員の推薦、公募、もしくは役員の自薦によって、将来に残したい水辺候補を選出し、審査委員会において、検討を行います。基本的に、推薦を受けた現場を確認の上決定します。

- ・選定地の数は決まっていますが、候補地が多い場合には、翌年にまわさせていただく場合があります。

## ■候補地の決定にあたって

- ・推薦文の中に、希少種が存在する場合は、種名を伏せる（公開しない）などの、配慮をさせていただきます。

- ・国立公園等、公的な保護がなされている場合は重複して認定することはありません

## ■選定地の公表の方法

- ・総会で発表と同時に学会の Web ページによる電子地図上で公開します。

